

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和5年度）

1 支援の内容及び効果等

【評価項目】「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の状況（実績）及び効果等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の状況（実績）及び効果等

評価	左記の理由
B	・年度始めと年度途中で各地域の現状と課題を区と整理し、効果的な支援へ繋げていた。 ・概ね地域活動協議会の運営方法などが改善されている。引き続き地域実情に応じた支援が必要な地域があるが、改善に向け継続的に支援している。 ・新たな担い手発掘等に繋げるため、他区・本部との連携を密に取りながら、町会加入促進や町会役員などの担い手育成を主眼とした鶴見区地域活動研究会（ツルラボ）等を実施していた。

【評価項目】「事業の実施体制等」

- (1) 自由提案による地域支援の支援状況（実績）及び効果等
- (2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる支援状況
- (2-2) フォロー（バックアップ）体制等にかかる支援状況
- (3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる支援状況

評価	左記の理由
B	・区との定期的なミーティングにおいて、情報・課題の共有が図れている。 ・地域との連携で課題が生じた支援員をアドバイザーや他の支援員が適切にフォローしていた。

2 取組効果の評価（アウトカムに対する評価）

【評価項目】 アンケート調査

評価	左記の理由
B	・地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査で、「まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると感じる割合」（目標値 85%）が 82.7%であり、昨年度実績の 82.5%と比較すると若干の増にとどまっている。目標値の達成には至っていないが、これは各構成団体が自律的に取組みを進めている状況から、支援を要する態様の濃淡も顕著となり、支援の必要性が薄くなっている団体が増えてきているとも考えられる。

3 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	・概ね地域活動協議会の運営方法などが改善されており、引き続き地域実情に応じた支援が必要な地域についても、改善に向け継続的に支援している。 ・新たな担い手発掘等に繋げるため、他区・本部との連携を密に取りながら、町会加入促進や町会役員などの担い手育成を主眼とした鶴見区地域活動研究会（ソルラボ）等を実施していた。 ・地域活動協議会の構成団体を対象に実施したアンケート調査で、「まちづくりセンター等は、地域の実情やニーズに即した支援を実施していると感じる割合」（目標値 85%）が 82.7%であり、昨年度実績の 82.5%と比較すると若干の増にとどまっているが、これは各構成団体が自律的に取組みを進めている状況から、支援の必要性が薄くなっている団体が増えてきていると考えられる。

（評価基準）

- S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。
- A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。
- B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。
- C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。